令和2年8月28日（金曜日）

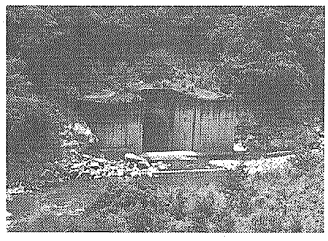
日刊 建設産業新聞

川辺川ダム建設は必要

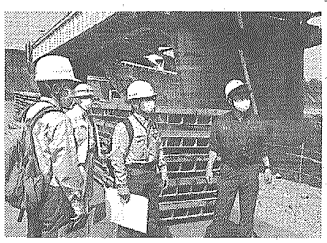
中止の現状や西瀬橋を視察

足立参院議員

自民党の足立敏之参議院議員は、災害対策をライフワークにしている一環で、今年の7月豪雨被害の現場や、効果を発揮したダム＝27日付1面で既報＝などの視察に現在奔走している。



完成済みの仮排水路トンネル



西瀬橋の仮復旧を視察する足立議員（右）

24日には、球磨川の決壊で被災した熊本県南部に、被災後4度目の訪問を果たした。今回は、民主党への政権交代等により、ダム本体が建設中止に追い込まれた川辺川ダムの現状を視察したほか、今回の水害で落橋した人吉市内の西瀬橋の仮復旧現場などを視察した。

川辺川ダムの建設予定地・五木村では、すでに水没者の99％が移転を終えている。現地では、99年時点で完成済みの仮排水トンネルの坑口や、本体工事用の骨材製造設備・貯蔵設備などの基礎も確認。「まさに本体工事着手直前にストップしたことがありありと分かり、改めてこのダムが完成していたらと残念な思いに捉われた」と言う。

今回の被災を契機に、地元でも川辺川ダム建設を促進しようとする機運が高まっている。20日には八代市長や人吉市長、芦北町長、錦町長など首長12人の連名による「川辺川ダム建設促進に関する流域市町村決議」がなされた。

また25日には、九州地方整備局が球磨川豪雨検証委員会の初会合を開催。川辺川ダムがあった場合、人吉市への流量を約4割削減できたとの試算を示した。この検証の行方に注目している足立議員は、「1日でも早く建設に着手し、災害に備えてほしい」と述べ、川辺川ダム建設の必要性を改めて強調した。

一方、西瀬橋の仮復旧現場では、被災から2か月も経たないうちに、すでに大型クレーンで応急仮設橋が緊急に設置されている状況を確認。児童らの登校ルートになっており、その迅速な施工による「スピード感に驚いた」と語った。